



佐野和子
副看護師長



中嶋るみ
主任看護師長

やまなし
医療最前線
看護のいま
県立中央病院から

〈307〉

加齢や病気をきっかけに
心身の機能が低下する「フ

入院患者の状態を把握する 「高齢者総合機能評価」の 評価項目の一例

- 筋肉・筋力量
- 認知機能
- 気分の落ち込みの有無
- 栄養状態
- のみ込む力
- 転倒や転落の危険度

「高齢者総合機能評価」を導入 フレイル予防多角的分析

レイル」(虚弱)が進むと、
一人で日常生活を送ることが
難しくなる。山梨県立中
央病院はフレイルを防ぐた
め、患者の体の状態を多角

的に分析して結果を本人に
報告。心身の衰えを自覚し
てもらい、運動や食生活の
改善を促している。

こうした入院患者の状態
を把握する仕組みは、「高
齢者総合機能評価」といい、
厚生労働省が定める診療報
酬の加算要件にもなってい
る。病院は昨年2月、65歳
以上の入院患者を対象に導
入した。

看
護局情報管理担当の中
嶋るみ主任看護師長による
と、具体的な評価項目は、
筋肉・筋力量や認知機能、
気分の落ち込みの有無、栄
養状態、のみ込む力、転倒
や転落の危険度など。看護
師が中心となつて調べ、最
終的に多職種チームが評

価総括表という形にしてま
とめる。
患者に対して、評価総括
表とともにフレイル予防に
つながる簡単なストレッチ
を紹介した。パンフレットを
渡す。フレイルが進むと慢
性疾患が悪化し、認知症の
リスクも高まることを説
明。退院後の運動や栄養
バランスの良い食事、社
会活動への参加などを促
す。

高
齢者総合機能評価の運
用に携わる同病院患者支援
センターの佐野和子副看護
師長は、「フレイルの状況
が進行してしまうと、改善
させるのは難しい。自分自
身の健康状態を知ってもら
うことで、フレイル予防に
取り組んでもらえるよう働
きかけていく」と話してい
る。

Ⅱ「看護のいま」シリー
ズは終了します。次回は2
月11日に掲載します。